

特別支援教室だより

令和8年 2月 吉日
巡回拠点大杉東小学校
特別支援教室通信

【 今回のテーマ 】



感覚が過敏な子 鈍感な子



【 このような様子が見られることがあります 】

感覚	過敏の例	鈍感の例
聴覚	チャイム・掃除機の音が辛い	呼び掛けに気付きにくい
触覚	衣服タグや靴下の縫い目が不快	痛みに鈍く怪我に気付かない
視覚	蛍光灯や明るい光が苦手	色の違いや変化を捉えにくい
身体感覚	強い刺激を嫌う	ドスドス歩く、強く押したがる

【 強みに注目しましょう 】

感覚の過敏や鈍感さは「困りごと」として捉えられてしまいがちですが、外部からの刺激を感じすぎたり、逆に感じにくかったりすることで、その子独自の視点や発想が育まれることもあります。

感覚の過敏を強みに 「気付きの名人」「もの見つけの名人」

○音に敏感⇒音や声の小さな変化にも気付く力を活かす。

- ・玄関の鍵の音、水の流れる音をいち早く察知し、家族を迎えたり、栓の閉め忘れチェックをしたりできる。
- ・家族の声の変化から、疲れている気配等を察知し、思いやりのある声掛けができる。

○視覚が鋭い⇒位置のズレに気付く力、細かい違いを見て、分類する力を活かす。

- ・物の位置の微妙なズレや変化に気付けるので、家族の無くしものを見つける名人として活躍できる。

鈍感さを強みに 「力仕事の名人」「集中の名人」

○身体感覚の鈍感さ⇒力加減は難しいものの、重いものを扱うことが得意な子が多い。

- ・重い物袋を運ぶ、布団を運ぶ、重い本や家電や家具の移動を手伝う等、活躍できる。

○触覚や身体感覚の鈍感さ⇒粘り強さや落ち着きがあり、多少の不快感や小さな刺激を気にしないため、集中して取り組める場面が多い。

- ・家族の話し声やテレビの音等の刺激に左右されず、作業に集中することができる。
- ・ちょっとしたアクシデントに対して、冷静に対処できる。

一番安心できる家庭内で、上記のように「できた！」「役に立った！」と感じられる場面が増えることは、自己肯定感の向上につながります。

本校には5名の巡回指導教員がおります。「特別支援教室」について、ご質問がございましたらご連絡ください。

また、本校のホームページに「特別支援教室だより」のバックナンバーも掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

ホームページの QR コードはこちら

